

注3 **大学番号：国043**

[令和2年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

事前伺い

静岡大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人静岡大学
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 企画部企画課

職名・氏名 企画課長 モチ望 ツキ月 カオリ香里

電話番号 054-238-4574

（夜間） 054-238-4574

F A X 054-237-0089

e-mail secchi@adb.shizuoka.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

教育学研究科

＜教育実践高度化専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	44
7. その他全般的事項	45

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人静岡大学

(2) 大学名

静岡大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒422-8529

静岡県静岡市駿河区大谷836番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(イシイ キヨシ) 石井 潔 (平成29年4月)		
研究科長	(エグチ ナオスミ) 江口 尚純 (平成31年4月)		
専攻長	(オオツカ アキラ) 大塚 玲 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
令和2年度に報告する内容 → (2)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
教育学研究科 教育実践高度化専攻 教職修士(専門職)	教員養成関係	2年	45人	-	90人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	45 (-) [-]						0.80 倍	- 倍	
志願者数	43 (-) [-]	0 (-) [-]							
受験者数	43 (-) [-]	0 (-) [-]							
合格者数	41 (-) [-]	0 (-) [-]							
B 入学者数	36 (-) [-]	0 (-) [-]							
入学定員超過率 B/A	0.80								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	36 [-] (-)	0 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	
計	36 [-] (-)		[] ()		[] ()		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	36 人	0 人	令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合計		0 人		人	人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数 (a)}}{\text{令和2年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{36} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数 (a)}}{\text{令和3年度の在学者数 (b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数 (a)}}{\text{令和4年度の在学者数 (b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<教育学研究科 教育実践高度化専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	教育課程の編成・実施	新しい学習観とカリキュラム・マネジメント	1前	2			1						
	教科等の実践的な指導方法	求められる授業とその開発	1前	2				1					
		教師の授業力量形成と校内授業研究の開発	1前	2				1					
	生徒指導・教育相談	生徒発達支援概論	1前	2			1	1					2
	学級経営・学校経営	学級経営の課題と学校	1前		2			2					
		学校づくりの理論と実践	1前		2			2					
	学校教育と教員の在り方	これからの社会変化と未来の学校像	1前	2				2					1
		アクションリサーチの理論と実践	1前	2				1					
		教職キャリアデザイン[基礎]	1前		2			1		1			
		教職キャリアデザイン[発展]	1前		2			1		1			
	独自領域	特別支援教育のシステムと方法	1前	2				1					
小計(11科目)		—	14	8	0	9	3	1	0	0	0	3	
実習科目	基盤実習	1前		3			6	1					
	実践的指導力高度化実習Ⅰ	1後		3			3						
	実践的指導力高度化実習Ⅱ	2通		4			3						
	訪問実習	1前		2			6	1					
	学校改善力高度化実習Ⅰ	1後		3			3						
	学校改善力高度化実習Ⅱ	2通		5			3						
	特別支援教育基盤実習	1前		3			2	1					
	特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅰ	1後		3			2	1					
	特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅱ	2通		4			2	1					
	特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅰ	1後		3			2	1					

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	教育課程の編成・実施	新しい学習観とカリキュラム・マネジメント	1前	2			1						
	教科等の実践的な指導方法	求められる授業とその開発	1前	2				1					
		教師の授業力量形成と校内授業研究の開発	1前	2				1					
	生徒指導・教育相談	生徒発達支援概論	1前	2			1	0					2
	学級経営・学校経営	学級経営の課題と学校	1前		2			2					
		学校づくりの理論と実践	1前		2			2					
	学校教育と教員の在り方	これからの社会変化と未来の学校像	1前	2				2					1
		アクションリサーチの理論と実践	1前	2				1					
		教職キャリアデザイン[基礎]	1前		2			1		1			
		教職キャリアデザイン[発展]	1前		2			1		1			
	独自領域	特別支援教育のシステムと方法	1前	2				1					
小計(11科目)		—	14	8	0	9	2	1	0	0	0	3	
実習科目	基盤実習	1後		3			6	1					
	実践的指導力高度化実習Ⅰ	1後		3			3						
	実践的指導力高度化実習Ⅱ	2通		4			3						
	訪問実習	1後		2			6	1					
	学校改善力高度化実習Ⅰ	1後		3			3						
	学校改善力高度化実習Ⅱ	2通		5			3						
	特別支援教育基盤実習	1前		3			2	1					
	特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅰ	1後		3			2	1					
	特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅱ	2通		4			2	1					
	特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅰ	1後		3			2	1					

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手		
	特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅱ	2通	5			2	1					
	小計(11科目)	—	0	38	0	8	2	0	0	0	0	0
教育方法分野	分野必修科目											
	校内授業研究の応用と評価	1後	2			2						
	資質・能力を育む授業デザインの開発	1後	2				1					
	授業と学習のメカニズム	1後	2									1
	自由選択科目											
	マイクロ・ティーティングによる授業実践演習Ⅰ	2前	2				1					
	マイクロ・ティーティングによる授業実践演習Ⅱ	2前	2				1					
学校研究コンサルテーションⅠ	2前	2				2						
学校研究コンサルテーションⅡ	2前	2				2						
教育実践の開発と評価	2後	2				2	1					
分野科目	教科横断的教育課程論	1後	2			6	4	1				
	教科学習論(人文社会系)	1後	2			4		1				1
	教科学習論(自然系)	1後	2			2	2					
	教科学習論(創造系)	1後	2			1	2					3
	教材開発論(国語)	1後	2									4
	教材開発論(社会科)	1後	2									4
	教材開発論(数学)	1後	2			2						
	教材開発論(理科)	1後	2			1						2
	教材開発論(音楽)	1後	2			1						2
	教材開発論(美術)	1後	2			1	1					4
	教材開発論(保健体育)	1後	2				1					
	教材開発論(技術科)	1後	2			1		1				4
	教材開発論(家庭科)	1後	2			1	1					3
	教材開発論(英語)	1後	2			1	1					2
教科教育分野	教科内容論(国語)	1後	2									4
	教科内容論(社会科)	1後	2									7
	教科内容論(数学)	1後	2									5
	教科内容論(理科)	1後	2									4
	教科内容論(音楽)	1後	2			1						2
	教科内容論(美術)	1後	2			1	1					
	教科内容論(保健体育)	1後	2				1					4
	教科内容論(技術科)	1後	2			1		1				4
	教科内容論(家庭科)	1後	2			1	1					3
	教科内容論(英語)	1後	2									4
	教科指導論(国語)	1後	2			2						
	教科指導論(社会科)	1後	2			1		1				2
	教科指導論(数学)	1後	2			2						
	教科指導論(理科)	1後	2			1						2
教科指導論(音楽)	1後	2				1					1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手		
	特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅱ	2通	5			2	1					
	小計(11科目)	—	0	38	0	8	2	0	0	0	0	0
教育方法分野	分野必修科目											
	校内授業研究の応用と評価	1後	2			2						
	資質・能力を育む授業デザインの開発	1後	2				1					
	授業と学習のメカニズム	1後	2									1
	自由選択科目											
	マイクロ・ティーティングによる授業実践演習Ⅰ	2前	2				1					
	マイクロ・ティーティングによる授業実践演習Ⅱ	2前	2				1					
学校研究コンサルテーションⅠ	2前	2				2						
学校研究コンサルテーションⅡ	2前	2				2						
教育実践の開発と評価	2後	2				2	1					
分野科目	教科横断的教育課程論	1後	2			6	4	1				
	教科学習論(人文社会系)	1後	2			4		1				1
	教科学習論(自然系)	1後	2			2	2					
	教科学習論(創造系)	1後	2			1	2					3
	教材開発論(国語)	1後	2									4
	教材開発論(社会科)	1後	2									4
	教材開発論(数学)	1後	2			2						
	教材開発論(理科)	1後	2			1						2
	教材開発論(音楽)	1後	2			1						2
	教材開発論(美術)	1後	2			1	1					4
	教材開発論(保健体育)	1後	2				1					
	教材開発論(技術科)	1後	2			1		1				4
	教材開発論(家庭科)	1後	2			1	1					3
	教材開発論(英語)	1後	2			1	1					2
教科教育分野	教科内容論(国語)	1後	2									4
	教科内容論(社会科)	1後	2									7
	教科内容論(数学)	1後	2									4
	教科内容論(理科)	1後	2									4
	教科内容論(音楽)	1後	2			1						2
	教科内容論(美術)	1後	2			1	1					
	教科内容論(保健体育)	1後	2				1					4
	教科内容論(技術科)	1後	2			1		1				4
	教科内容論(家庭科)	1後	2			1	1					3
	教科内容論(英語)	1後	2									4
	教科指導論(国語)	1後	2			2						
	教科指導論(社会科)	1後	2			1		1				2
	教科指導論(数学)	1後	2			2						
	教科指導論(理科)	1後	2			1						2
教科指導論(音楽)	1後	2				1					1	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
分野科目 教科教育分野	教科指導論(美術)	1後		2		1	1					
	教科指導論(保健体育)	1後		2			1					4
	教科指導論(技術科)	1後		2		1		1				4
	教科指導論(家庭科)	1後		2		1	1					3
	教科指導論(英語)	1後		2		1						3
	教科内容演習A(国語)	2前		2								4
	教科内容演習A(社会科)	2前		2		1		1				7
	教科内容演習A(数学)	2前		2								5
	教科内容演習A(理科)	2前		2								5
	教科内容演習A(音楽)	2前		2		1	1					3
	教科内容演習A(美術)	2前		2								4
	教科内容演習A(保健体育)	2前		2			1					1
	教科内容演習A(技術科)	2前		2		1		1				4
	教科内容演習A(家庭科)	2前		2		1	1					3
	教科内容演習A(英語)	2前		2								4
	教科内容演習B(国語)	2後		2								4
	教科内容演習B(社会科)	2後		2		1		1				7
	教科内容演習B(数学)	2後		2								5
	教科内容演習B(理科)	2後		2								5
	教科内容演習B(音楽)	2後		2		1	1					3
	教科内容演習B(美術)	2前		2								4
	教科内容演習B(保健体育)	2後		2								3
	教科内容演習B(技術科)	2後		2		1		1				4
	教科内容演習B(家庭科)	2後		2		1	1					3
	自由選択科目	教科内容演習B(英語)	2後		2							4
		教科教育専門研究A(国語)	2前		2		1					4
		教科教育専門研究A(社会科)	2前		2		1		1			7
		教科教育専門研究A(数学)	2前		2							5
		教科教育専門研究A(理科)	2前		2		1	1				8
		教科教育専門研究A(音楽)	2前		2		1	1				3
		教科教育専門研究A(美術)	2前		2							4
		教科教育専門研究A(保健体育)	2前		2			1				1
教科教育専門研究A(技術科)		2前		2		1		1			4	
教科教育専門研究A(家庭科)		2前		2		1	1				3	
教科教育専門研究A(英語)		2前		2			1				3	
教科教育専門研究B(国語)		2後		2		1					4	
教科教育専門研究B(社会科)	2後		2		1		1			7		
教科教育専門研究B(数学)	2後		2							5		
教科教育専門研究B(理科)	2後		2		1	1				8		

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
分野科目 教科教育分野	教科指導論(美術)	1後		2		1	1					
	教科指導論(保健体育)	1後		2			1					4
	教科指導論(技術科)	1後		2		1		1				4
	教科指導論(家庭科)	1後		2		1	1					3
	教科指導論(英語)	1後		2		1						3
	教科内容演習A(国語)	2前		2								4
	教科内容演習A(社会科)	2前		2		1		1				7
	教科内容演習A(数学)	2前		2								4
	教科内容演習A(理科)	2前		2								5
	教科内容演習A(音楽)	2前		2		1	1					3
	教科内容演習A(美術)	2前		2								4
	教科内容演習A(保健体育)	2前		2			1					1
	教科内容演習A(技術科)	2前		2		1		1				4
	教科内容演習A(家庭科)	2前		2		1	1					3
	教科内容演習A(英語)	2前		2								4
	教科内容演習B(国語)	2後		2								4
	教科内容演習B(社会科)	2後		2		1		1				7
	教科内容演習B(数学)	2後		2								4
	教科内容演習B(理科)	2後		2								5
	教科内容演習B(音楽)	2後		2		1	1					3
	教科内容演習B(美術)	2前		2								4
	教科内容演習B(保健体育)	2後		2								3
	教科内容演習B(技術科)	2後		2		1		1				4
	教科内容演習B(家庭科)	2後		2		1	1					3
	自由選択科目	教科内容演習B(英語)	2後		2							4
		教科教育専門研究A(国語)	2前		2		1					4
		教科教育専門研究A(社会科)	2前		2		1		1			7
		教科教育専門研究A(数学)	2前		2							4
		教科教育専門研究A(理科)	2前		2		1	1				8
		教科教育専門研究A(音楽)	2前		2		1	1				3
		教科教育専門研究A(美術)	2前		2							4
		教科教育専門研究A(保健体育)	2前		2			1				1
教科教育専門研究A(技術科)		2前		2		1		1			4	
教科教育専門研究A(家庭科)		2前		2		1	1				3	
教科教育専門研究A(英語)		2前		2			1				3	
教科教育専門研究B(国語)		2後		2		1					4	
教科教育専門研究B(社会科)	2後		2		1		1			7		
教科教育専門研究B(数学)	2後		2							4		
教科教育専門研究B(理科)	2後		2		1	1				8		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教科教育分野 自由選択科目	教科教育専門研究B(音楽)	2後		2		1	1					3
	教科教育専門研究B(美術)	2前		2								4
	教科教育専門研究B(保健体育)	2後		2								5
	教科教育専門研究B(技術科)	2後		2		1		1				4
	教科教育専門研究B(家庭科)	2後		2		1	1					3
	教科教育専門研究B(英語)	2後		2			1					3
生徒発達支援分野 自由選択科目	学校心理学の理論と方法	1後		2		1						
	臨床心理学の理論と方法	1後		2			1					
	発達心理学の理論と実際	1後		2							1	
	学習支援の理論と実際	1後		2								1
	心理アセスメントの理論と実際	2前		2			1					
	学校コンサルテーションの理論と実際	2前		2		1						
特別支援教育分野 自由選択科目	生徒指導・教育相談の理論と実際	1後		2		2						
	発達障害の理解と対応	1後		2								1
	特別支援教育の現状と課題Ⅰ	1後		2								1
	ユニバーサルデザイン授業論	1後		2			1					
	障害児の認知発達とその支援	1後		2		1						
	発達臨床・特別支援の実践から学ぶ	2前		2								1
幼児教育分野 自由選択科目	特別支援教育の現状と課題Ⅱ	2前		2								1
	特別支援教育における授業デザイン	2前		2			1					
	幼児教育の現状と課題	1後		2		1						
	乳幼児音楽概論	1後		2								1
	乳幼児の権利と幼児教育・保育	1後		2		1						
	子どもの育ちと文化	2前		2		1						
養護教育分野 自由選択科目	乳幼児期の保育と音楽教育	2前		2								1
	幼児教育課程とESD	2前		2		1						
	学校保健の現状と課題	1後		2								1
	学校における危機管理	1後		2		2						1
	養護教諭の教育実践の実際と課題	1後		2		1						
	養護教諭の行うアセスメント方法と課題	2前		2		1						1
現代的教育課題分野 自由選択科目	病気の子どもへの理解と養護教諭の対応	2前		2		1						1
	養護教諭が行う健康教育の実際と課題	2後		2		1						1
	健康相談の実際と課題	2前		2		2						1
	現代的教育課題への道標	1後		2		1	1					5
	リフレクティブ・シンキング演習	1後		2		1	1					5
	クリエイティブ・シンキング演習	1後		2		1	1					5
国際理解教育 自由選択科目	国際理解教育	2前		2								1
	道徳	2前		2								2
	ICTによる学習環境の構築	1後		2			1					

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教科教育分野 自由選択科目	教科教育専門研究B(音楽)	2後		2		1	1					3
	教科教育専門研究B(美術)	2前		2								4
	教科教育専門研究B(保健体育)	2後		2								4
	教科教育専門研究B(技術科)	2後		2		1		1				4
	教科教育専門研究B(家庭科)	2後		2		1	1					3
	教科教育専門研究B(英語)	2後		2			1					3
生徒発達支援分野 自由選択科目	学校心理学の理論と方法	1後		2		1						
	臨床心理学の理論と方法	1後		2			0					1
	発達心理学の理論と実際	1後		2								1
	学習支援の理論と実際	1後		2								1
	心理アセスメントの理論と実際	2前		2			0					
	学校コンサルテーションの理論と実際	2前		2		1						
特別支援教育分野 自由選択科目	生徒指導・教育相談の理論と実際	1後		2		2						
	発達障害の理解と対応	1後		2								1
	特別支援教育の現状と課題Ⅰ	1後		2								1
	ユニバーサルデザイン授業論	1後		2			1					
	障害児の認知発達とその支援	1後		2		1						
	発達臨床・特別支援の実践から学ぶ	2前		2								1
幼児教育分野 自由選択科目	特別支援教育の現状と課題Ⅱ	2前		2								1
	特別支援教育における授業デザイン	2前		2			1					
	幼児教育の現状と課題	1後		2		1						
	乳幼児音楽概論	1後		2								1
	乳幼児の権利と幼児教育・保育	1後		2		1						
	子どもの育ちと文化	2前		2		1						
養護教育分野 自由選択科目	乳幼児期の保育と音楽教育	2前		2								1
	幼児教育課程とESD	2前		2		1						
	学校保健の現状と課題	1後		2								1
	学校における危機管理	1後		2		2						1
	養護教諭の教育実践の実際と課題	1後		2		1						
	養護教諭の行うアセスメント方法と課題	2前		2		1						1
現代的教育課題分野 自由選択科目	病気の子どもへの理解と養護教諭の対応	2前		2		1						1
	養護教諭が行う健康教育の実際と課題	2後		2		1						1
	健康相談の実際と課題	2前		2		2						1
	現代的教育課題への道標	1後		2		1	1					5
	リフレクティブ・シンキング演習	1後		2		1	1					5
	クリエイティブ・シンキング演習	1後		2		1	1					5
国際理解教育 自由選択科目	国際理解教育	2前		2								1
	道徳	2前		2								2
	ICTによる学習環境の構築	1後		2			1					

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・ 井出智博准教授の就任辞退（他大学への転出）により、「生徒発達支援概論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・ コロナウイルスの影響により、今年度に限り「基盤実習」の配当年次・開講期を「1前」から「1後」に変更
- ・ コロナウイルスの影響により、今年度に限り「訪問自習」の配当年次・開講期を「1前」から「1後」に変更
- ・ 畑宏明准教授の就任辞退（他大学への転出）により、「教科内容論（数学）」の兼任・兼任の配置を「5」から「4」に変更
- ・ 畑宏明准教授の就任辞退（他大学への転出）により、「教科内容演習A(数学)」の兼任・兼任の配置を「5」から「4」に変更
- ・ 畑宏明准教授の就任辞退（他大学への転出）により、「教科内容演習B(数学)」の兼任・兼任の配置を「5」から「4」に変更
- ・ 畑宏明准教授の就任辞退（他大学への転出）により、「教科教育専門教育A(数学)」の兼任・兼任の配置を「5」から「4」に変更
- ・ 畑宏明准教授の就任辞退（他大学への転出）により、「教科教育専門研究B(数学)」の兼任・兼任の配置を「5」から「4」に変更
- ・ 吉田和人教授の就任辞退（他大学への転出）により、「教科教育専門研究B(保健体育)」の兼任・兼任の配置を「5」から「4」に変更
- ・ 井出智博准教授の就任辞退（他大学への転出）に伴い藤枝静暁（非常勤講師）が担当することにより、「臨床心理学の理論と方法」の専任教員等の配置「准教授1」を兼任・兼任の配置「1」に変更
- ・ 井出智博准教授の就任辞退（他大学への転出）により、「心理アセスメントの理論と実際」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・ 1年後期以降の実習科目につなげる授業改善の視点により、「学校と地域の協働」の配当年次を「1年後期」から「1年前期」に変更
- ・ 吉田和人教授、畑宏明准教授の就任辞退（他大学への転出）により、「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」の兼任・兼任の配置を「64」から「62」に変更

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
9 科目	138 科目	0 科目	147 科目	9 科目 [0]	138 科目 [0]	0 科目 [0]	147 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{147} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	282,046 m ²	— m ²	— m ²	282,046 m ²			
	運動場用地	84,654 m ²	— m ²	— m ²	84,654 m ²			
	小 計	366,700 m ²	— m ²	— m ²	366,700 m ²			
	そ の 他	3,754,640 m ²	— m ²	— m ²	3,754,640 m ²			
	合 計	4,121,340 m ²	— m ²	— m ²	4,121,340 m ²			
(2) 校舎	専 用	183,227 m ² 183,084 m²	— m ²	— m ²	183,227 m ² 183,084 m²	光創起イノベーション研究拠点棟の面積修正のため(2)		
	(183,227 m ²) (183,084 m²)	(— m ²)	(— m ²)	(183,227 m²) (183,084 m²)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	10 室	18 室	1 室	0 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	教育学研究科 教育実践高度化専攻			40 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書、学術雑誌、電子ジャーナル及び視聴覚資料は、研究科単位で特定不能なため、大学全体の数 図書、雑誌、視聴覚については除籍を含む蔵書整理を行ったため。電子ジャーナルは業者都合による契約数変更があったため。(2)
	教育学研究科 教育実践高度化専攻	1,211,450 [349,300] 1,207,700 [347,890] (1,207,556 [348,957]) (1,208,500 [349,495])	20,535 [6,510] 20,495 [6,550] (20,495 [6,508]) (20,500)	5,600 [5,520] 5,684 [5,604] (5,594 [5,510]) (5,683 [5,603])	6,776 7,718 (6,719) (7,791)	(0)	(0)	
	計	1,211,450 [349,300] 1,207,700 [347,890] (1,207,556 [348,957]) (1,208,500 [349,495])	20,535 [6,510] 20,495 [6,550] (20,495 [6,508]) (20,500)	5,600 [5,520] 5,684 [5,604] (5,594 [5,510]) (5,683 [5,603])	6,776 7,718 (6,719) (7,791)	(0)	(0)	
(6) 図書館	面 積	12,251 m ²	閱 覧 座 席 数	1,065 1,034	収 納 可 能 冊 数	1,106,638 1,106,611	大学全体 浜松分館の増改築において、当初計画とずれが生じたため(2)	
	面 積	3,970 m ²	体育館以外のスポーツ施設の概要 水泳プール、テニスコート、武道場、弓道場ほか			大学全体		
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、

その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消のまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。

- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	静岡大学									備考		
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)		開設年度	所在地
人文社会科学部		年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度		平成24年度入学生より、人文学部から人文社会科学部へ学部名称変更
社会学科	4	70	—	280	学士 (社会学又は学術)	1.05	1.00	—	昭和57	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地		
言語文化学科	4	75	—	300	学士 (文学又は学術)	1.02	1.02	—	平成 4	同上		
法学科	4	90	3年次 2	364	学士 (法学又は学術)	1.01	1.02	—	昭和53	同上		
法学科(夜間主 コース)	4	30	3年次 3	126	学士 (法学)	1.02	1.00	—	平成 8	同上		
経済学科	4	155	—	620	学士 (経済学又は学術)	1.04	1.00	—	昭和53	同上		
経済学科(夜間主 コース)	4	30	—	120	学士 (経済学)	1.02	1.00	—	平成 8	同上		
教育学部				300		1.01	1.02					
学校教育教員養成 課程	4	300	—	1,200	学士 (教育学)	1.01	1.02	—	平成10	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地		
生涯教育課程	4	—	—	—	学士 (教育学)	—	—	—	平成10	同上	平成28年度より学 生募集停止	
情報学部				245		1.02	1.00					
情報科学科	4	100	—	400	学士 (情報学)	1.03	1.00	—	平成 8	静岡県浜松市中区城 北三丁目5番1号		
行動情報学科	4	70	—	280	学士 (情報学)	1.03	1.00	—	平成28	同上		
情報社会学科	4	75	—	300	学士 (情報学又は学術)	1.01	1.01	—	平成 8	同上		
理学部				240		1.01	1.02					
数学科	4	38	—	152	学士 (理学)	0.96	0.92	—	昭和40	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地		

物理学科	4	48	—	192	学士 (理学又は 学術)	0.97	1.04	—	昭和40	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地	
化学科	4	52	—	208	学士 (理学又は 学術)	0.90	0.92	—	昭和40	同上	
生物科学科	4	52	—	208	学士 (理学又は 学術)	0.89	0.88	—	平成18	同上	
地球科学科	4	50	—	200	学士 (理学又は 学術)	0.95	0.94	—	平成18	同上	
工学部		550		2,200		1.03	1.02				
機械工学科	4	168	—	672	学士 (工学又は 学術)	1.04	1.05	—	平成7	静岡県浜松市中区城 北三丁目5番1号	
電気電子工学科	4	110	—	440	学士 (工学)	1.03	1.01	—	平成7	同上	
電子物質科学科	4	110	—	440	学士 (工学)	1.01	1.00	—	平成25	同上	
化学バイオ工学科	4	112	—	448	学士 (工学又は 学術)	1.01	1.00	—	平成25	同上	
数理システム工学科	4	50	—	200	学士 (工学)	1.05	1.00	—	平成25	同上	
物質工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	—	—	平成7	同上	平成25年度より学 生募集停止
システム工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	—	—	平成7	同上	平成25年度より学 生募集停止
農学部		185	3年次 10	760		1.04	1.01				
生物資源科学科	4	115	3年次 7	474	学士 (農学又は 学術)	1.03	1.01	—	平成28	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地	
応用生命科学科	4	70	3年次 3	286	学士 (農学)	1.04	1.01	—	平成28	同上	
共生バイオサイエ ンス学科	4	—	—	—	学士 (農学)	—	—	—	平成18	静岡県静岡市駿河区 大谷836番地	平成28年度より学 生募集停止
応用生物化学科	4	—	—	—	学士 (農学)	—	—	—	平成元	同上	平成28年度より学 生募集停止
環境森林科学科	4	—	—	—	学士 (農学)	—	—	—	平成18	同上	平成28年度より学 生募集停止
大学全体	4	1,970	15	7,910	—	1.02	1.01	—	—	—	

大学の名称	静岡大学大学院										備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開年	設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度			
大学院人文社会科学研究科		36		72		0.98	1.02					
臨床人間科学専攻	2	11	—	22	修士(臨床人間科学)	0.99	1.09	—	平成15		静岡県静岡市駿河区大谷836番地	
比較地域文化専攻	2	10	—	20	修士(文学)	1.00	1.00	—	平成9		同上	
経済専攻	2	15	—	30	修士(経済学)	0.96	1.00	—	平成17		同上	
大学院教育学研究科		49		129								
共同教科開発学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	1.50	1.50	—	平成24		静岡県静岡市駿河区大谷836番地	
教育実践高度化専攻	2	45	—	45	教職修士(専門職)	0.80	0.80	—	令和2		同上	
学校教育研究専攻	2	—	—	52	修士(教育学)	—	—	—	平成21		同上	令和2年度より学生募集停止
教育実践高度化専攻	2	—	—	20	教職修士(専門職)	—	—	—	平成21		同上	令和2年度より学生募集停止
大学院総合科学技術研究科		539		1,018		1.09	0.99					
情報学専攻	2	60	—	120	修士(情報学)	1.23	1.20	—	平成27		静岡県浜松市中区城北三丁目5番1号	
理学専攻	2	70	—	140	修士(理学)	0.91	0.84	—	平成27		静岡県静岡市駿河区大谷836番地	
工学専攻	2	322	—	584	修士(工学)	1.17	1.01	令和2	平成27		静岡県浜松市中区城北三丁目5番1号	定員変更(60)
農学専攻	2	87	—	174	修士(農学)	0.89	0.90	—	平成27		静岡県静岡市駿河区大谷836番地	
大学院工学研究科												
事業開発マネジメント専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	—	—	平成18		静岡県浜松市中区城北三丁目5番1号	平成27年度より学生募集停止

大学院光医工学研究科		5		15		1.00	1.00			
光医工学共同専攻	3	5	—	15	博士 (光医工学)	1.00	1.00	—	平成30	静岡県浜松市中区城北三丁目5番1号
大学院自然科学系教育部		45		135		0.90	0.46			
ナノビジョン工学専攻	3	10	—	30	博士 (学術又は工学)	0.66	0.30	—	平成18	静岡県浜松市中区城北三丁目5番1号
光・ナノ物質機能専攻	3	9	—	27	博士 (学術、理学又は工学)	0.62	0.22	—	平成18	同上
情報科学専攻	3	11	—	33	博士 (学術、情報学、理学又は工学)	1.11	0.72	—	平成18	同上
環境・エネルギーシステム専攻	3	7	—	21	博士 (学術、理学又は工学)	1.13	0.85	—	平成18	静岡県静岡市駿河区大谷836番地
バイオサイエンス専攻	3	8	—	24	博士 (学術、理学、工学又は農学)	1.04	0.25	—	平成18	同上
大学院全体		674	—	1,369	—	1.07	0.95	—	—	—

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学研究科 教育実践高度化専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	村山 功 <令和2年4月> 教育学修士※	専	教授	村山 功 <令和2年4月> 教育学修士※
		新しい学習観とカリキュラム・マネジメント これからの社会変化と未来の学校像 ※ 校内授業研究の応用と評価 学校研究コンサルテーション I 学校研究コンサルテーション II 教育実践の開発と評価 教科横断的教育課程論 ※ 基盤実習 訪問実習 課題研究 I 課題研究 II			新しい学習観とカリキュラム・マネジメント これからの社会変化と未来の学校像 ※ 校内授業研究の応用と評価 学校研究コンサルテーション I 学校研究コンサルテーション II 教育実践の開発と評価 教科横断的教育課程論 ※ 基盤実習 訪問実習 課題研究 I 課題研究 II
専	教授	石上 靖芳 <令和2年4月> 修士(教育学)	専	教授	石上 靖芳 <令和2年4月> 修士(教育学)
		教師の授業力量形成と校内授業研究の開発 校内授業研究の応用と評価 学校研究コンサルテーション I 学校研究コンサルテーション II 教育実践の開発と評価 基盤実習 訪問実習 課題研究 I 課題研究 II			教師の授業力量形成と校内授業研究の開発 校内授業研究の応用と評価 学校研究コンサルテーション I 学校研究コンサルテーション II 教育実践の開発と評価 基盤実習 訪問実習 課題研究 I 課題研究 II
専	教授	武井 敦史 <令和2年4月> 博士(教育学)	専	教授	武井 敦史 <令和2年4月> 博士(教育学)
		学校づくりの理論と実践 教育政策の流れと学校論 学校改革の理論とリーダーシップ 夢の学校づくり・学校改善への実践論 基盤実習 訪問実習 課題研究 I 課題研究 II			学校づくりの理論と実践 教育政策の流れと学校論 学校改革の理論とリーダーシップ 夢の学校づくり・学校改善への実践論 基盤実習 訪問実習 課題研究 I 課題研究 II
専	准教授	渋江 かさね <令和2年4月> 博士(学術)	専	准教授	渋江 かさね <令和2年4月> 博士(学術)
		教職キャリアデザイン[発展] 成人の学習の事例と理論 学校と地域の協働 課題研究 I 課題研究 II			教職キャリアデザイン[発展] 成人の学習の事例と理論 学校と地域の協働 課題研究 I 課題研究 II
専	講師	島田 桂吾 <令和2年4月> 修士(教育学)※	専	講師	島田 桂吾 <令和2年4月> 修士(教育学)※
		教職キャリアデザイン[基礎] 教育政策の流れと学校論 教育法制度の理論と実際 夢の学校づくり・学校改善への実践論 課題研究 I 課題研究 II			教職キャリアデザイン[基礎] 教育政策の流れと学校論 教育法制度の理論と実際 夢の学校づくり・学校改善への実践論 課題研究 I 課題研究 II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	教授	大塚 浩 <令和2年4月> 教育学修士※	専他	教授	大塚 浩 <令和2年4月> 教育学修士※
		教科横断的教育課程論 ※ 教科学習論(人文社会系) ※ 教科指導論(国語) 教科教育専門研究A(国語) 教科教育専門研究B(国語) 課題研究I 課題研究II			教科横断的教育課程論 ※ 教科学習論(人文社会系) ※ 教科指導論(国語) 教科教育専門研究A(国語) 教科教育専門研究B(国語) 課題研究I 課題研究II
専他	教授	磯山 恭子 <令和2年4月> 修士(教育学)	専他	教授	磯山 恭子 <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科横断的教育課程論 ※ 教科学習論(人文社会系) ※ 教科指導論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II			教科横断的教育課程論 ※ 教科学習論(人文社会系) ※ 教科指導論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II
専他	教授	熊倉 啓之 <令和2年4月> 理学修士	専他	教授	熊倉 啓之 <令和2年4月> 理学修士
		教科横断的教育課程論 ※ 教材開発論(数学) 教科指導論(数学) 課題研究I 課題研究II			教科横断的教育課程論 ※ 教材開発論(数学) 教科指導論(数学) 課題研究I 課題研究II
専他	教授	小南 陽亮 <令和2年4月> 理学博士	専他	教授	小南 陽亮 <令和2年4月> 理学博士
		教材開発論(理科) 教科指導論(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(理科) 教科指導論(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II
専他	教授	寶福 英樹 <令和2年4月> 芸術学修士	専他	教授	寶福 英樹 <令和2年4月> 芸術学修士
		教材開発論(音楽) 教科内容論(音楽) 教科内容演習A(音楽) 教科内容演習B(音楽) 教科教育専門研究A(音楽) 教科教育専門研究B(音楽) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(音楽) 教科内容論(音楽) 教科内容演習A(音楽) 教科内容演習B(音楽) 教科教育専門研究A(音楽) 教科教育専門研究B(音楽) 課題研究I 課題研究II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	教授	芳賀 正之 <令和2年4月> 修士(教育学)	専他	教授	芳賀 正之 <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科横断的教育課程論 ※ 教科学習論(創造系) ※ 教材開発論(美術) 教科内容論(美術) 教科指導論(美術) 課題研究 I 課題研究 II			教科横断的教育課程論 ※ 教科学習論(創造系) ※ 教材開発論(美術) 教科内容論(美術) 教科指導論(美術) 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	色川 卓男 <令和2年4月> 商学修士	専他	教授	色川 卓男 <令和2年4月> 商学修士
		教科横断的教育課程論 ※ 教材開発論(家庭科) 教科内容論(家庭科) 教科指導論(家庭科) 教科内容演習 A(家庭科) 教科内容演習 B(家庭科) 教科教育専門研究 A(家庭科) 教科教育専門研究 B(家庭科) 課題研究 I 課題研究 II			教科横断的教育課程論 ※ 教材開発論(家庭科) 教科内容論(家庭科) 教科指導論(家庭科) 教科内容演習 A(家庭科) 教科内容演習 B(家庭科) 教科教育専門研究 A(家庭科) 教科教育専門研究 B(家庭科) 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	小林(加藤) 朋子 <令和2年4月> 博士(教育学)	専他	教授	小林(加藤) 朋子 <令和2年4月> 博士(教育学)
		生徒発達支援概論 ※ 学校心理学の理論と方法 学校コンサルテーションの理論と実際 課題研究 I 課題研究 II			生徒発達支援概論 ※ 学校心理学の理論と方法 学校コンサルテーションの理論と実際 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	大塚 玲 <令和2年4月> 教育学修士※	専他	教授	大塚 玲 <令和2年4月> 教育学修士※
		特別支援教育のシステムと方法 障害児の認知発達とその支援 特別支援教育基盤実習 特別支援教育実践的指導力高度化実習 I 特別支援教育実践的指導力高度化実習 II 特別支援教育学校改善力高度化実習 I 特別支援教育学校改善力高度化実習 II 課題研究 I 課題研究 II			特別支援教育のシステムと方法 障害児の認知発達とその支援 特別支援教育基盤実習 特別支援教育実践的指導力高度化実習 I 特別支援教育実践的指導力高度化実習 II 特別支援教育学校改善力高度化実習 I 特別支援教育学校改善力高度化実習 II 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	石原 剛志 <令和2年4月> 修士(教育学)※	専他	教授	石原 剛志 <令和2年4月> 修士(教育学)※
		乳幼児の権利と幼児教育・保育 子どもの育ちと文化 課題研究 I 課題研究 II			乳幼児の権利と幼児教育・保育 子どもの育ちと文化 課題研究 I 課題研究 II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	教授	鈴江 毅 <令和2年4月> 博士(医学)	専他	教授	鈴江 毅 <令和2年4月> 博士(医学)
		学校における危機管理 ※ 病気の子どもへの理解と養護教諭の対応 ※ 健康相談の実際と課題 ※ 課題研究 I 課題研究 II			学校における危機管理 ※ 病気の子どもへの理解と養護教諭の対応 ※ 健康相談の実際と課題 ※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	宇都宮 裕章 <令和2年4月> 修士(教育学)	専他	教授	宇都宮 裕章 <令和2年4月> 修士(教育学)
		現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング演習 クリエイティブ・シンキング演習 対話的な学びと言語活動 課題研究 I 課題研究 II			現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング演習 クリエイティブ・シンキング演習 対話的な学びと言語活動 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	郡司 賀透 <令和2年4月> 博士(教育学)	専他	准教授	郡司 賀透 <令和2年4月> 博士(教育学)
		教科横断的教育課程論 ※ 教科学習論(自然系) ※ 教科教育専門研究 A(理科) 教科教育専門研究 B(理科) 課題研究 I 課題研究 II			教科横断的教育課程論 ※ 教科学習論(自然系) ※ 教科教育専門研究 A(理科) 教科教育専門研究 B(理科) 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	長谷川 慎 <令和2年4月> 修士(音楽)	専他	准教授	長谷川 慎 <令和2年4月> 修士(音楽)
		教科横断的教育課程論 ※ 教科学習論(創造系) ※ 教科指導論(音楽) 教科内容演習 A(音楽) 教科内容演習 B(音楽) 教科教育専門研究 A(音楽) 教科教育専門研究 B(音楽) 課題研究 I 課題研究 II			教科横断的教育課程論 ※ 教科学習論(創造系) ※ 教科指導論(音楽) 教科内容演習 A(音楽) 教科内容演習 B(音楽) 教科教育専門研究 A(音楽) 教科教育専門研究 B(音楽) 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	赤田 信一 <令和2年4月> 修士(体育学)	専他	准教授	赤田 信一 <令和2年4月> 修士(体育学)
		教材開発論(保健体育) 教科指導論(保健体育) 教科教育専門研究 A(保健体育) 課題研究 I 課題研究 II			教材開発論(保健体育) 教科指導論(保健体育) 教科教育専門研究 A(保健体育) 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	亙理 陽一 <令和2年4月> 博士(教育学)	専他	准教授	亙理 陽一 <令和2年4月> 博士(教育学)
		教科横断的教育課程論 ※ 教材開発論(英語) 教科教育専門研究 A(英語) 教科教育専門研究 B(英語) 課題研究 I 課題研究 II			教科横断的教育課程論 ※ 教材開発論(英語) 教科教育専門研究 A(英語) 教科教育専門研究 B(英語) 課題研究 I 課題研究 II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	准教授	井出 智博 <令和2年4月> 博士(文学)	専他	准教授	令和3年4月採用予定 <令和3年4月予定>
		生徒発達支援概論 ※ 臨床心理学の理論と方法 心理アセスメントの理論と実際 課題研究 I 課題研究 II			心理アセスメントの理論と実際 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	塩田 真吾 <令和2年4月> 博士(学術)	専他	准教授	塩田 真吾 <令和2年4月> 博士(学術)
		現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング演習 クリエイティブ・シンキング演習 ICTによる学習環境の構築 課題研究 I 課題研究 II			現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング演習 クリエイティブ・シンキング演習 ICTによる学習環境の構築 課題研究 I 課題研究 II
専他	講師	室伏 春樹 <令和2年4月> 修士(教育学)	専他	講師	室伏 春樹 <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科横断的教育課程論 ※ 教材開発論(技術科) 教科内容論(技術科) 教科指導論(技術科) 教科内容演習A(技術科) 教科内容演習B(技術科) 教科教育専門研究A(技術科) 教科教育専門研究B(技術科) 課題研究 I 課題研究 II			教科横断的教育課程論 ※ 教材開発論(技術科) 教科内容論(技術科) 教科指導論(技術科) 教科内容演習A(技術科) 教科内容演習B(技術科) 教科教育専門研究A(技術科) 教科教育専門研究B(技術科) 課題研究 I 課題研究 II
実専	教授	町 岳 <令和2年4月> 博士(心理学)	実専	教授	町 岳 <令和2年4月> 博士(心理学)
		求められる授業とその開発 資質・能力を育む授業デザインの開発 マイクロ・ティーチングによる授業実践演習 I マイクロ・ティーチングによる授業実践演習 II 教育実践の開発と評価 基盤実習 訪問実習 課題研究 I 課題研究 II			求められる授業とその開発 資質・能力を育む授業デザインの開発 マイクロ・ティーチングによる授業実践演習 I マイクロ・ティーチングによる授業実践演習 II 教育実践の開発と評価 基盤実習 訪問実習 課題研究 I 課題研究 II
実専他	教授	坂口 京子 <令和2年4月> 博士(教育学)	実専他	教授	坂口 京子 <令和2年4月> 博士(教育学)
		教科学習論(人文社会系) ※ 教科指導論(国語) 課題研究 I 課題研究 II			教科学習論(人文社会系) ※ 教科指導論(国語) 課題研究 I 課題研究 II
実専他	教授	裕元 新一郎 <令和2年4月> 修士(教育学)	実専他	教授	裕元 新一郎 <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科学習論(自然系) ※ 教科指導論(数学) 教材開発論(数学) 課題研究 I 課題研究 II			教科学習論(自然系) ※ 教科指導論(数学) 教材開発論(数学) 課題研究 I 課題研究 II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専他	教授	紅林 秀治 <令和2年4月> 博士(学校教育学)	実専他	教授	紅林 秀治 <令和2年4月> 博士(学校教育学)
		教科学習論(自然系) ※			教科学習論(自然系) ※
		教材開発論(技術科)			教材開発論(技術科)
		教科内容論(技術科)			教科内容論(技術科)
		教科指導論(技術科)			教科指導論(技術科)
		教科内容演習A(技術科)			教科内容演習A(技術科)
		教科内容演習B(技術科)			教科内容演習B(技術科)
		教科教育専門研究A(技術科)			教科教育専門研究A(技術科)
		教科教育専門研究B(技術科)			教科教育専門研究B(技術科)
		課題研究 I			課題研究 I
課題研究 II	課題研究 II				
実専他	教授	矢野 淳 <令和2年4月> 修士(教育学)	実専他	教授	矢野 淳 <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科学習論(人文社会系) ※			教科学習論(人文社会系) ※
		教材開発論(英語)			教材開発論(英語)
		教科指導論(英語)			教科指導論(英語)
		課題研究 I			課題研究 I
課題研究 II	課題研究 II				
実専他	教授	田宮 縁 <令和2年4月> 修士(教育学)	実専他	教授	田宮 縁 <令和2年4月> 修士(教育学)
		幼児教育の現状と課題			幼児教育の現状と課題
		幼児教育課程とESD			幼児教育課程とESD
		課題研究 I			課題研究 I
課題研究 II	課題研究 II				
実専他	教授	鎌塚 優子 <令和2年4月> 博士(教育学)	実専他	教授	鎌塚 優子 <令和2年4月> 博士(教育学)
		養護教諭の教育実践の実際と課題			養護教諭の教育実践の実際と課題
		養護教諭の行うアセスメント方法と課題 ※			養護教諭の行うアセスメント方法と課題 ※
		養護教諭が行う健康教育の実際と課題 ※			養護教諭が行う健康教育の実際と課題 ※
		学校における危機管理 ※			学校における危機管理 ※
		健康相談の実際と課題 ※			健康相談の実際と課題 ※
		課題研究 I			課題研究 I
課題研究 II	課題研究 II				
実専他	准教授	高橋 智子 <令和2年4月> 修士(教育学)	実専他	准教授	高橋 智子 <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科学習論(創造系) ※			教科学習論(創造系) ※
		教材開発論(美術)			教材開発論(美術)
		教科内容論(美術)			教科内容論(美術)
		教科指導論(美術)			教科指導論(美術)
		課題研究 I			課題研究 I
課題研究 II	課題研究 II				
実専他	准教授	野津 一浩 <令和2年4月> 修士(教育学) ※	実専他	准教授	野津 一浩 <令和2年4月> 修士(教育学) ※
		教科横断的教育課程論 ※			教科横断的教育課程論 ※
		教科内容論(保健体育)			教科内容論(保健体育)
		教科内容演習A(保健体育)			教科内容演習A(保健体育)
課題研究 I	課題研究 I				
課題研究 II	課題研究 II				

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専他	准教授	小清水 貴子 <令和2年4月> 修士(家政学)	実専他	准教授	小清水 貴子 <令和2年4月> 修士(家政学)
		教科学習論(自然系) ※ 教材開発論(家庭科) 教科内容論(家庭科) 教科指導論(家庭科) 教科内容演習A(家庭科) 教科内容演習B(家庭科) 教科教育専門研究A(家庭科) 教科教育専門研究B(家庭科) 課題研究I 課題研究II			教科学習論(自然系) ※ 教材開発論(家庭科) 教科内容論(家庭科) 教科指導論(家庭科) 教科内容演習A(家庭科) 教科内容演習B(家庭科) 教科教育専門研究A(家庭科) 教科教育専門研究B(家庭科) 課題研究I 課題研究II
実専他	准教授	山元 薫 <令和2年4月> 教職修士(専門職)	実専他	准教授	山元 薫 <令和2年4月> 教職修士(専門職)
		ユニバーサルデザイン授業論 特別支援教育における授業デザイン 特別支援教育基盤実習 特別支援教育実践の指導力高度化実習I 特別支援教育実践の指導力高度化実習II 特別支援教育学校改善力高度化実習I 特別支援教育学校改善力高度化実習II 課題研究I 課題研究II			ユニバーサルデザイン授業論 特別支援教育における授業デザイン 特別支援教育基盤実習 特別支援教育実践の指導力高度化実習I 特別支援教育実践の指導力高度化実習II 特別支援教育学校改善力高度化実習I 特別支援教育学校改善力高度化実習II 課題研究I 課題研究II
実専他	講師	村井 大介 <令和2年4月> 博士(教育学)	実専他	講師	村井 大介 <令和2年4月> 博士(教育学)
		教科学習論(人文社会系) ※ 教科指導論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II			教科学習論(人文社会系) ※ 教科指導論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II
実み	教授	鈴木 秀志 <令和2年4月> 教育学士			
		学級経営の課題と学校 生徒指導・教育相談の理論と実際 基盤実習 訪問実習 実践の指導力高度化実習I 実践の指導力高度化実習II 学校改善力高度化実習I 学校改善力高度化実習II 課題研究I 課題研究II			

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
					<p>神田 景司</p> <p><令和2年4月> 教育学士</p> <p>学級経営の課題と学校 生徒指導・教育相談の理論と実際 基盤実習 訪問実習 実践的指導力高度化実習Ⅰ 実践的指導力高度化実習Ⅱ 学校改善力高度化実習Ⅰ 学校改善力高度化実習Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ</p>
		伊藤 公介 <令和2年4月> 社会学士			伊藤 公介 <令和2年4月> 社会学士
実み	教授	<p>学級経営の課題と学校 生徒指導・教育相談の理論と実際 基盤実習 訪問実習 実践的指導力高度化実習Ⅰ 実践的指導力高度化実習Ⅱ 学校改善力高度化実習Ⅰ 学校改善力高度化実習Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ</p>	実み	教授	<p>学級経営の課題と学校 生徒指導・教育相談の理論と実際 基盤実習 訪問実習 実践的指導力高度化実習Ⅰ 実践的指導力高度化実習Ⅱ 学校改善力高度化実習Ⅰ 学校改善力高度化実習Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ</p>
		小岱 和代 <令和2年4月> 文学士			小岱 和代 <令和2年4月> 文学士
実み	教授	<p>学校づくりの理論と実践 これからの社会変化と未来の学校像 ※ 教育政策の流れと学校論 教育法制度の理論と実際 学校改革の理論とリーダーシップ 夢の学校づくり・学校改善への実践論 特別支援教育基盤実習 特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅰ 特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅱ 特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅰ 特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ</p>	実み	教授	<p>学校づくりの理論と実践 これからの社会変化と未来の学校像 ※ 教育政策の流れと学校論 教育法制度の理論と実際 学校改革の理論とリーダーシップ 夢の学校づくり・学校改善への実践論 特別支援教育基盤実習 特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅰ 特別支援教育実践的指導力高度化実習Ⅱ 特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅰ 特別支援教育学校改善力高度化実習Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ</p>
		吉澤 勝治 <令和2年4月> 修士(教育学)			吉澤 勝治 <令和2年4月> 修士(教育学)
実み	教授	<p>アクションリサーチの理論と実践 教職キャリアデザイン [基礎] 教職キャリアデザイン [発展] 教育政策の流れと学校論 基盤実習 訪問実習 実践的指導力高度化実習Ⅰ 実践的指導力高度化実習Ⅱ 学校改善力高度化実習Ⅰ 学校改善力高度化実習Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ</p>	実み	教授	<p>アクションリサーチの理論と実践 教職キャリアデザイン [基礎] 教職キャリアデザイン [発展] 教育政策の流れと学校論 基盤実習 訪問実習 実践的指導力高度化実習Ⅰ 実践的指導力高度化実習Ⅱ 学校改善力高度化実習Ⅰ 学校改善力高度化実習Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ</p>

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	杉崎 哲子 <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	教授	杉崎 哲子 <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科学習論(創造系) ※ 教材開発論(国語) 教科内容論(国語) 教科内容演習A(国語) 教科内容演習B(国語) 教科教育専門研究A(国語) 教科教育専門研究B(国語) 課題研究I 課題研究II			教科学習論(創造系) ※ 教材開発論(国語) 教科内容論(国語) 教科内容演習A(国語) 教科内容演習B(国語) 教科教育専門研究A(国語) 教科教育専門研究B(国語) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	江口 尚純 <令和2年4月> 文学修士	兼任	教授	江口 尚純 <令和2年4月> 文学修士
		教材開発論(国語) 教科内容論(国語) 教科内容演習A(国語) 教科内容演習B(国語) 教科教育専門研究A(国語) 教科教育専門研究B(国語) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(国語) 教科内容論(国語) 教科内容演習A(国語) 教科内容演習B(国語) 教科教育専門研究A(国語) 教科教育専門研究B(国語) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	矢野 敬一 <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	教授	矢野 敬一 <令和2年4月> 博士(文学)
		教材開発論(社会科) 教科内容論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(社会科) 教科内容論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	池田 恵子 <令和2年4月> 修士(社会学)※	兼任	教授	池田 恵子 <令和2年4月> 修士(社会学)※
		教科内容論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング 演習 クリエイティブ・シンキング 演習 社会参加によるESD実践 課題研究I 課題研究II			教科内容論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング 演習 クリエイティブ・シンキング 演習 社会参加によるESD実践 課題研究I 課題研究II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	山田 耕三 <令和2年4月> 博士(数学)	兼任	教授	山田 耕三 <令和2年4月> 博士(数学)
		教科内容論(数学) 教科内容演習A(数学) 教科内容演習B(数学) 教科教育専門研究A(数学) 教科教育専門研究B(数学) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(数学) 教科内容演習A(数学) 教科内容演習B(数学) 教科教育専門研究A(数学) 教科教育専門研究B(数学) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	大和田 智義 <令和2年4月> 博士(理学)	兼任	教授	大和田 智義 <令和2年4月> 博士(理学)
		教科内容論(数学) 教科内容演習A(数学) 教科内容演習B(数学) 教科教育専門研究A(数学) 教科教育専門研究B(数学) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(数学) 教科内容演習A(数学) 教科内容演習B(数学) 教科教育専門研究A(数学) 教科教育専門研究B(数学) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	小山 真人 <令和3年4月> 理学博士	兼任	教授	小山 真人 <令和3年4月> 理学博士
		教科内容演習A(理科) 教科内容演習B(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II			教科内容演習A(理科) 教科内容演習B(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	延原 尊美 <令和2年4月> 博士(理学)	兼任	教授	延原 尊美 <令和2年4月> 博士(理学)
		教材開発論(理科) 教科指導論(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(理科) 教科指導論(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	古賀 幹人 <令和2年4月> 博士(理学)	兼任	教授	古賀 幹人 <令和2年4月> 博士(理学)
		教材開発論(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	大宮 康男 <令和2年4月> 文学修士※	兼任	教授	大宮 康男 <令和2年4月> 文学修士※
		教材開発論(美術) 教科内容演習A(美術) 教科内容演習B(美術) 教科教育専門研究A(美術) 教科教育専門研究B(美術) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(美術) 教科内容演習A(美術) 教科内容演習B(美術) 教科教育専門研究A(美術) 教科教育専門研究B(美術) 課題研究I 課題研究II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	伊藤 文彦 <令和2年4月> 芸術学修士	兼任	教授	伊藤 文彦 <令和2年4月> 芸術学修士
		教材開発論(美術) 教科内容演習A(美術) 教科内容演習B(美術) 教科教育専門研究A(美術) 教科教育専門研究B(美術) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(美術) 教科内容演習A(美術) 教科内容演習B(美術) 教科教育専門研究A(美術) 教科教育専門研究B(美術) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	河合 学 <令和2年4月> 体育学士	兼任	教授	河合 学 <令和2年4月> 体育学士
		教科指導論(保健体育) 教科教育専門研究B(保健体育) 課題研究I 課題研究II			教科指導論(保健体育) 教科教育専門研究B(保健体育) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	新保 淳 <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	教授	新保 淳 <令和2年4月> 博士(教育学)
		教科指導論(保健体育) 教科教育専門研究B(保健体育) 課題研究I 課題研究II			教科指導論(保健体育) 教科教育専門研究B(保健体育) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	杉山 康司 <令和2年4月> 博士(スポーツ健康科学)	兼任	教授	杉山 康司 <令和2年4月> 博士(スポーツ健康科学)
		教科内容論(保健体育) 教科内容演習B(保健体育) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(保健体育) 教科内容演習B(保健体育) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	岡端 隆 <令和2年4月> 体育学修士	兼任	教授	岡端 隆 <令和2年4月> 体育学修士
		教科指導論(保健体育) 教科教育専門研究B(保健体育) 課題研究I 課題研究II			教科指導論(保健体育) 教科教育専門研究B(保健体育) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	松永 泰弘 <令和2年4月> 博士(工学)	兼任	教授	松永 泰弘 <令和2年4月> 博士(工学)
		教材開発論(技術科) 教科内容論(技術科) 教科指導論(技術科) 教科内容演習A(技術科) 教科内容演習B(技術科) 教科教育専門研究A(技術科) 教科教育専門研究B(技術科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(技術科) 教科内容論(技術科) 教科指導論(技術科) 教科内容演習A(技術科) 教科内容演習B(技術科) 教科教育専門研究A(技術科) 教科教育専門研究B(技術科) 課題研究I 課題研究II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	藤井 道彦 <令和2年4月> 農学修士	兼任	教授	藤井 道彦 <令和2年4月> 農学修士
		教材開発論(技術科) 教科内容論(技術科) 教科指導論(技術科) 教科内容演習A(技術科) 教科内容演習B(技術科) 教科教育専門研究A(技術科) 教科教育専門研究B(技術科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(技術科) 教科内容論(技術科) 教科指導論(技術科) 教科内容演習A(技術科) 教科内容演習B(技術科) 教科教育専門研究A(技術科) 教科教育専門研究B(技術科) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	村上 陽子 <令和2年4月> 博士(学術)	兼任	教授	村上 陽子 <令和2年4月> 博士(学術)
		教材開発論(家庭科) 教科内容論(家庭科) 教科指導論(家庭科) 教科内容演習A(家庭科) 教科内容演習B(家庭科) 教科教育専門研究A(家庭科) 教科教育専門研究B(家庭科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(家庭科) 教科内容論(家庭科) 教科指導論(家庭科) 教科内容演習A(家庭科) 教科内容演習B(家庭科) 教科教育専門研究A(家庭科) 教科教育専門研究B(家庭科) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	冬木 春子 <令和2年4月> 博士(学術)	兼任	教授	冬木 春子 <令和2年4月> 博士(学術)
		教材開発論(家庭科) 教科内容論(家庭科) 教科指導論(家庭科) 教科内容演習A(家庭科) 教科内容演習B(家庭科) 教科教育専門研究A(家庭科) 教科教育専門研究B(家庭科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(家庭科) 教科内容論(家庭科) 教科指導論(家庭科) 教科内容演習A(家庭科) 教科内容演習B(家庭科) 教科教育専門研究A(家庭科) 教科教育専門研究B(家庭科) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	白畑 知彦 <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	教授	白畑 知彦 <令和2年4月> 博士(文学)
		教科学習論(人文社会系) ※ 教材開発論(英語) 教科内容論(英語) 課題研究I 課題研究II			教科学習論(人文社会系) ※ 教材開発論(英語) 教科内容論(英語) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	森野 和弥 <令和2年4月> 文学修士	兼任	教授	森野 和弥 <令和2年4月> 文学修士
		教科内容論(英語) 教科指導論(英語) 教科内容演習A(英語) 教科内容演習B(英語) 教科教育専門研究A(英語) 教科教育専門研究B(英語) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(英語) 教科指導論(英語) 教科内容演習A(英語) 教科内容演習B(英語) 教科教育専門研究A(英語) 教科教育専門研究B(英語) 課題研究I 課題研究II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	丸山 修 <令和2年4月> 文学修士	兼任	教授	丸山 修 <令和2年4月> 文学修士
		教科内容論(英語) 教科指導論(英語) 教科内容演習A(英語) 教科内容演習B(英語) 教科教育専門研究A(英語) 教科教育専門研究B(英語) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(英語) 教科指導論(英語) 教科内容演習A(英語) 教科内容演習B(英語) 教科教育専門研究A(英語) 教科教育専門研究B(英語) 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	梅澤 収 <令和2年4月> 教育学修士※	兼任	教授	梅澤 収 <令和2年4月> 教育学修士※
		これからの社会変化と未来の 学校像 ※ 課題研究I 課題研究II			これからの社会変化と未来の 学校像 ※ 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	村越 真 <令和2年4月> 博士(心理学)	兼任	教授	村越 真 <令和2年4月> 博士(心理学)
		学校における危機管理 ※ 現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング 演習 クリエイティブ・シンキング 演習 課題研究I 課題研究II			学校における危機管理 ※ 現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング 演習 クリエイティブ・シンキング 演習 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	吉田 和人 <令和3年4月> 博士(スポーツ健康科学)			
		教科教育専門研究B(保健体 育) 課題研究I 課題研究II			
兼任	教授	小林 敬一 <令和2年4月> 博士(教育心理学)	兼任	教授	小林 敬一 <令和2年4月> 博士(教育心理学)
		生徒発達支援概論 ※ 学習支援の理論と実際 課題研究I 課題研究II			生徒発達支援概論 ※ 学習支援の理論と実際 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	香野 毅 <令和2年4月> 博士(心理学)	兼任	教授	香野 毅 <令和2年4月> 博士(心理学)
		発達障害の理解と対応 発達臨床・特別支援の実践か ら学ぶ 課題研究I 課題研究II			発達障害の理解と対応 発達臨床・特別支援の実践か ら学ぶ 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	中村 ともえ <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	中村 ともえ <令和2年4月> 博士(文学)
		教材開発論(国語) 教科内容論(国語) 教科内容演習A(国語) 教科内容演習B(国語) 教科教育専門研究A(国語) 教科教育専門研究B(国語) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(国語) 教科内容論(国語) 教科内容演習A(国語) 教科内容演習B(国語) 教科教育専門研究A(国語) 教科教育専門研究B(国語) 課題研究I 課題研究II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	西野 肇 <令和2年4月> 修士(学術) 修士(経済学) ※	兼任	准教授	西野 肇 <令和2年4月> 修士(学術) 修士(経済学) ※
		教材開発論(社会科) 教科内容論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(社会科) 教科内容論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	伊藤 宏二 <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	伊藤 宏二 <令和2年4月> 博士(文学)
		教科内容論(社会科) 教科指導論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(社会科) 教科指導論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	中條 暁仁 <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	中條 暁仁 <令和2年4月> 博士(文学)
		教科内容論(社会科) 教科指導論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(社会科) 教科指導論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	米原 優 <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	米原 優 <令和2年4月> 博士(文学)
		教材開発論(社会科) 教科内容論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(社会科) 教科内容論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	佐藤 正志 <令和2年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	佐藤 正志 <令和2年4月> 博士(学術)
		教材開発論(社会科) 教科内容論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(社会科) 教科内容論(社会科) 教科内容演習A(社会科) 教科内容演習B(社会科) 教科教育専門研究A(社会科) 教科教育専門研究B(社会科) 課題研究I 課題研究II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	谷本 龍二 <令和2年4月> 博士(理学)	兼任	准教授	谷本 龍二 <令和2年4月> 博士(理学)
		教科内容論(数学) 教科内容演習A(数学) 教科内容演習B(数学) 教科教育専門研究A(数学) 教科教育専門研究B(数学) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(数学) 教科内容演習A(数学) 教科内容演習B(数学) 教科教育専門研究A(数学) 教科教育専門研究B(数学) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	畑 宏明 <令和2年4月> 博士(理学)	兼任	准教授	
		教科内容論(数学) 教科内容演習A(数学) 教科内容演習B(数学) 教科教育専門研究A(数学) 教科教育専門研究B(数学) 課題研究I 課題研究II			
兼任	准教授	本多 和仁 <令和2年4月> 博士(理学)	兼任	准教授	本多 和仁 <令和2年4月> 博士(理学)
		教科内容論(理科) 教科内容演習A(理科) 教科内容演習B(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(理科) 教科内容演習A(理科) 教科内容演習B(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	雪田 聡 <令和2年4月> 博士(理学)	兼任	准教授	雪田 聡 <令和2年4月> 博士(理学)
		教科内容論(理科) 教科内容演習A(理科) 教科内容演習B(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(理科) 教科内容演習A(理科) 教科内容演習B(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	長谷川 慶岳 <令和2年4月> 修士(音楽)	兼任	准教授	長谷川 慶岳 <令和2年4月> 修士(音楽)
		教材開発論(音楽) 教科内容論(音楽) 教科内容演習A(音楽) 教科内容演習B(音楽) 教科教育専門研究A(音楽) 教科教育専門研究B(音楽) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(音楽) 教科内容論(音楽) 教科内容演習A(音楽) 教科内容演習B(音楽) 教科教育専門研究A(音楽) 教科教育専門研究B(音楽) 課題研究I 課題研究II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	川原崎 知洋 <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	准教授	川原崎 知洋 <令和2年4月> 修士(教育学)
		教材開発論(美術) 教科内容演習A(美術) 教科内容演習B(美術) 教科教育専門研究A(美術) 教科教育専門研究B(美術) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(美術) 教科内容演習A(美術) 教科内容演習B(美術) 教科教育専門研究A(美術) 教科教育専門研究B(美術) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	矢野 潔子 <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	准教授	矢野 潔子 <令和2年4月> 博士(教育学)
		学校保健の現状と課題 養護教諭の行うアセスメント 方法と課題 ※ 病気の子どもと養護教諭の 対応 ※ 養護教諭が行う健康教育の実 践と課題 ※ 健康相談の実際と課題 ※ 課題研究I 課題研究II			学校保健の現状と課題 養護教諭の行うアセスメント 方法と課題 ※ 病気の子どもと養護教諭の 対応 ※ 養護教諭が行う健康教育の実 践と課題 ※ 健康相談の実際と課題 ※ 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	祝原(吉永) 豊 <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	准教授	祝原(吉永) 豊 <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科内容論(保健体育) 教科内容演習B(保健体育) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(保健体育) 教科内容演習B(保健体育) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	杉山 卓也 <令和2年4月> 博士(体育学)	兼任	准教授	杉山 卓也 <令和2年4月> 博士(体育学)
		教科指導論(保健体育) 教科教育専門研究B(保健体 育) 課題研究I 課題研究II			教科指導論(保健体育) 教科教育専門研究B(保健体 育) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	鄭 基浩 <令和2年4月> 博士(農学)	兼任	准教授	鄭 基浩 <令和2年4月> 博士(農学)
		教材開発論(技術科) 教科内容論(技術科) 教科指導論(技術科) 教科内容演習A(技術科) 教科内容演習B(技術科) 教科教育専門研究A(技術 科) 教科教育専門研究B(技術 科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(技術科) 教科内容論(技術科) 教科指導論(技術科) 教科内容演習A(技術科) 教科内容演習B(技術科) 教科教育専門研究A(技術 科) 教科教育専門研究B(技術 科) 課題研究I 課題研究II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	改正 清広 <令和2年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	改正 清広 <令和2年4月> 博士(工学)
		教材開発論(技術科) 教科内容論(技術科) 教科指導論(技術科) 教科内容演習A(技術科) 教科内容演習B(技術科) 教科教育専門研究A(技術科) 教科教育専門研究B(技術科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(技術科) 教科内容論(技術科) 教科指導論(技術科) 教科内容演習A(技術科) 教科内容演習B(技術科) 教科教育専門研究A(技術科) 教科教育専門研究B(技術科) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	竹下 温子 <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	竹下 温子 <令和2年4月> 博士(医学)
		教材開発論(家庭科) 教科内容論(家庭科) 教科指導論(家庭科) 教科内容演習A(家庭科) 教科内容演習B(家庭科) 教科教育専門研究A(家庭科) 教科教育専門研究B(家庭科) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(家庭科) 教科内容論(家庭科) 教科指導論(家庭科) 教科内容演習A(家庭科) 教科内容演習B(家庭科) 教科教育専門研究A(家庭科) 教科教育専門研究B(家庭科) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	河村 道彦 <令和2年4月> 教育学修士※	兼任	教授	河村 道彦 <令和2年4月> 教育学修士※
		教科内容論(英語) 教科指導論(英語) 教科内容演習A(英語) 教科内容演習B(英語) 教科教育専門研究A(英語) 教科教育専門研究B(英語) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(英語) 教科指導論(英語) 教科内容演習A(英語) 教科内容演習B(英語) 教科教育専門研究A(英語) 教科教育専門研究B(英語) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	Clements Peter Frederick <令和2年4月> ph. D.(米国)	兼任	准教授	Clements Peter Frederick <令和2年4月> ph. D.(米国)
		教材開発論(英語) 教科内容演習A(英語) 教科内容演習B(英語) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(英語) 教科内容演習A(英語) 教科内容演習B(英語) 課題研究I 課題研究II
兼任	准教授	YAMAMOTO LUCIA EMIKO <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	YAMAMOTO LUCIA EMIKO <令和2年4月> 博士(文学)
		現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング 演習 クリエイティブ・シンキング 演習 国際理解教育 課題研究I 課題研究II			現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング 演習 クリエイティブ・シンキング 演習 国際理解教育 課題研究I 課題研究II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼担	准教授	藤井 基貴 <令和2年4月> 修士(教育学)※	兼担	准教授	藤井 基貴 <令和2年4月> 修士(教育学)※
		現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング 演習 クリエイティブ・シンキング 演習 道徳 課題研究 I 課題研究 II			現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング 演習 クリエイティブ・シンキング 演習 道徳 課題研究 I 課題研究 II
兼担	准教授	中村 美智太郎 <令和2年4月> 博士(学術)	兼担	准教授	中村 美智太郎 <令和2年4月> 博士(学術)
		現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング 演習 クリエイティブ・シンキング 演習 道徳 課題研究 I 課題研究 II			現代的教育課題への道標 ※ リフレクティブ・シンキング 演習 クリエイティブ・シンキング 演習 道徳 課題研究 I 課題研究 II
兼担	准教授	石川(岡埜) 眞佐江 <令和2年4月> 博士(学術)	兼担	准教授	石川(岡埜) 眞佐江 <令和2年4月> 博士(学術)
		乳幼児音楽概論 乳幼児期の保育と音楽教育 課題研究 I 課題研究 II			乳幼児音楽概論 乳幼児期の保育と音楽教育 課題研究 I 課題研究 II
兼担	准教授	石川 慶和 <令和2年4月> 修士(心身障害学)	兼担	准教授	石川 慶和 <令和2年4月> 修士(心身障害学)
		特別支援教育の現状と課題 I 特別支援教育の現状と課題 II 課題研究 I 課題研究 II			特別支援教育の現状と課題 I 特別支援教育の現状と課題 II 課題研究 I 課題研究 II
兼担	准教授	河崎 美保 <令和2年4月> 博士(教育学)	兼担	准教授	河崎 美保 <令和2年4月> 博士(教育学)
		授業と学習のメカニズム 課題研究 I 課題研究 II			授業と学習のメカニズム 課題研究 I 課題研究 II
兼担	講師	深津 周太 <令和2年4月> 博士(文学)	兼担	講師	深津 周太 <令和2年4月> 博士(文学)
		教材開発論(国語) 教科内容論(国語) 教科内容演習 A(国語) 教科内容演習 B(国語) 教科教育専門研究 A(国語) 教科教育専門研究 B(国語) 課題研究 I 課題研究 II			教材開発論(国語) 教科内容論(国語) 教科内容演習 A(国語) 教科内容演習 B(国語) 教科教育専門研究 A(国語) 教科教育専門研究 B(国語) 課題研究 I 課題研究 II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	四之宮 佳彦 <令和2年4月> 博士(理学)	兼任	講師	四之宮 佳彦 <令和2年4月> 博士(理学)
		教科内容論(数学) 教科内容演習A(数学) 教科内容演習B(数学) 教科教育専門研究A(数学) 教科教育専門研究B(数学) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(数学) 教科内容演習A(数学) 教科内容演習B(数学) 教科教育専門研究A(数学) 教科教育専門研究B(数学) 課題研究I 課題研究II
兼任	講師	加藤 英明 <令和2年4月> 博士(農学)	兼任	講師	加藤 英明 <令和2年4月> 博士(農学)
		教科内容論(理科) 教科内容演習A(理科) 教科内容演習B(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(理科) 教科内容演習A(理科) 教科内容演習B(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II
兼任	講師	内山 秀樹 <令和2年4月> 博士(理学)	兼任	講師	内山 秀樹 <令和2年4月> 博士(理学)
		教科内容論(理科) 教科内容演習A(理科) 教科内容演習B(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(理科) 教科内容演習A(理科) 教科内容演習B(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II
兼任	講師	後藤(富田)友香理 <令和2年4月> 博士(音楽)	兼任	講師	後藤(富田)友香理 <令和2年4月> 博士(音楽)
		教材開発論(音楽) 教科内容論(音楽) 教科内容演習A(音楽) 教科内容演習B(音楽) 教科教育専門研究A(音楽) 教科教育専門研究B(音楽) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(音楽) 教科内容論(音楽) 教科内容演習A(音楽) 教科内容演習B(音楽) 教科教育専門研究A(音楽) 教科教育専門研究B(音楽) 課題研究I 課題研究II
兼任	講師	服部 慶子 <令和2年4月> 博士(音楽)	兼任	講師	服部 慶子 <令和2年4月> 博士(音楽)
		教科学習論(創造系) ※ 教科指導論(音楽) 教科内容演習A(音楽) 教科内容演習B(音楽) 教科教育専門研究A(音楽) 教科教育専門研究B(音楽) 課題研究I 課題研究II			教科学習論(創造系) ※ 教科指導論(音楽) 教科内容演習A(音楽) 教科内容演習B(音楽) 教科教育専門研究A(音楽) 教科教育専門研究B(音楽) 課題研究I 課題研究II

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	名倉 達了 <令和2年4月> 修士(美術)	兼任	講師	名倉 達了 <令和2年4月> 修士(美術)
		教材開発論(美術) 教科内容演習A(美術) 教科内容演習B(美術) 教科教育専門研究A(美術) 教科教育専門研究B(美術) 課題研究I 課題研究II			教材開発論(美術) 教科内容演習A(美術) 教科内容演習B(美術) 教科教育専門研究A(美術) 教科教育専門研究B(美術) 課題研究I 課題研究II
兼任	講師	村田 真一 <令和2年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	村田 真一 <令和2年4月> 修士(体育学)
		教科内容論(保健体育) 教科内容演習B(保健体育) 課題研究I 課題研究II			教科内容論(保健体育) 教科内容演習B(保健体育) 課題研究I 課題研究II
兼任	講師	山崎(柴田) 朱音 <令和2年4月> 博士(コーチング学)	兼任	講師	山崎(柴田) 朱音 <令和2年4月> 博士(コーチング学)
		教科学習論(創造系) ※ 教科内容論(保健体育) 教科内容演習A(保健体育) 課題研究I 課題研究II			教科学習論(創造系) ※ 教科内容論(保健体育) 教科内容演習A(保健体育) 課題研究I 課題研究II
兼任	講師	古見 文一 <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	古見 文一 <令和2年4月> 博士(教育学)
		生徒発達支援概論 ※ 発達心理学の理論と実際 課題研究I 課題研究II			生徒発達支援概論 ※ 発達心理学の理論と実際 課題研究I 課題研究II
兼任	講師	山本 高広 <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	山本 高広 <令和2年4月> 修士(教育学)
		教科指導論(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II			教科指導論(理科) 教科教育専門研究A(理科) 教科教育専門研究B(理科) 課題研究I 課題研究II
			兼任	講師	藤枝 静暁 <令和2年10月> 博士(心理学) 臨床心理学の理論と方法

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・ 井出智博准教授の就任辞退（他大学への転出）により、担当教員から削除。同様の業績を持つ後任の教員を令和3年4月採用予定。
- ・ 鈴木秀志教授の就任辞退（退職）により、担当教員を同様の業績を持つ後任の神田景司教授に変更。
- ・ 吉田和人教授の就任辞退（他大学への転出）により、担当教員から削除。
- ・ 畑宏明准教授の就任辞退（他大学への転出）により、担当教員から削除。
- ・ 河村道彦准教授、令和2年4月1日付けで教授に昇任
- ・ 井出智博准教授の就任辞退（他大学への転出）により、「臨床心理学の理論と実際」の授業担当者として、同様の業績を持つ藤枝静暁（非常勤講師）を追加。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数
37	19	15
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【教職大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
25	12	3	0	40	0	25	11	3	0	39	0
(25)	(12)	(3)	(3)	(40)	(0)						
研究者教員数			講義のみ担当の教員数			研究者教員数			講義のみ担当の教員数		
24			0			23			0		
(24)			(0)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
25	11	3	0	39	0	25	12	3	0	40	0
[0]	[Δ1]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究者教員数			講義のみ担当の教員数			研究者教員数			講義のみ担当の教員数		
23			0			24			0		
[Δ1]			[0]			[0]			[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
教員 65 特任教員 70	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{39}{40} = \boxed{97.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{39} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\quad} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
1	教授	鈴木 秀志	R2.3	選択	学級経営の課題と学校	①	R2.3 健康上の理由のため就任辞退（2）		
				選択	生徒指導・教育相談の理論と実際	①			
				選択	基盤実習	①			
				選択	訪問実習	①			
				選択	実践的指導力高度化実習Ⅰ	①			
				選択	実践的指導力高度化実習Ⅱ	①			
				選択	学校改善力高度化実習Ⅰ	①			
				選択	学校改善力高度化実習Ⅱ	①			
				必修	課題研究Ⅰ	①			
必修	課題研究Ⅱ	①							
2	准教授	井出 智博	R2.3	必修	生徒発達支援概論	①	R2.3 他大学への転出のため就任辞退（2）		
				選択	臨床心理学の理論と方法	②			
				選択	心理アセスメントの理論と実際	③			
				必修	課題研究Ⅰ	③			
				必修	課題研究Ⅱ	③			
合計（D）				後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
2	人	必修	5 科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	2 科目
		選択	10 科目	選択	8 科目	選択	1 科目	選択	1 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	15 科目	計	11 科目	計	1 科目	計	3 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし							
合計（F）				後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。

- また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 専任教員が担当する（している）場合は「①」 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	5 科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	2 科目
		選択	10 科目	選択	8 科目	選択	1 科目	選択	1 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	15 科目	計	11 科目	計	1 科目	計	3 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{2}{40} = \boxed{5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 専任教員が担当する（している）場合は「①」 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

鈴木秀志教授（みなし専任教員）の就任辞退については、開設時（令和2年4月）までに後任補充ができており、担当を予定していた授業科目はすべて後任の教員が担当することになっている。学生が入学した時点で既に後任が就任していること、学生便覧等の学生への配布する印刷物等についても交代後の教員で周知されていることから、専任教員交代による学生の履修等への影響は特になく考えている。また、学生へは、交代後の教員で周知されていることから、当該専任教員交代に関する学生への周知は特に予定していない。

井出智博准教授の就任辞退については、後任の令和3年4月の採用を目指して準備を進めている。同人が担当を予定していた授業科目のうち、「生徒発達支援概論」については、同じ分野の4名によるオムニバス形式の授業から、同人以外の3名の担当教員によるオムニバス形式の授業に変更し、「臨床心理学の理論と方法」については、令和2年度に限り、同じ研究分野の他大学の教員に非常勤講師を依頼することとしている。それ以外の授業科目及び令和3年度以降の「臨床心理学の理論と方法」については、令和3年4月に採用する後任の専任教員が担当することとしており、学生の履修等への影響がないよう対応ができていているものと考えている。なお、授業担当者についてはガイダンス時に学生へ周知している。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和元年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学研究科 教育実践高度化専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①「訪問実習」の訪問先について、小学校、特別支援学校、福祉施設等を計画している。</p> <p>②前期授業は4月9日～7月31日である。</p> <p>③授業形態は、アクティブ・ラーニング型の授業を工夫する。</p>	<p>① コロナウイルスの影響により、いくつかの学校、施設で受け入れが困難であり、訪問時期の延期及び代替プログラム等の措置を検討中である。</p> <p>② コロナウイルスの影響により、前期授業は4月30日～8月7日となった。</p> <p>③ コロナウイルスの影響により、アクティブ・ラーニング型授業を主とする対面授業ができなくなり、当面の間はメディアを利用したオンライン授業を実施する。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況（資料1～4）</p> <p><学内></p> <p>ア 自己点検・FD委員会</p> <p>イ 認証評価準備委員会</p> <p><学外></p> <p>ウ 教職大学院運営委員会</p> <p>エ 連携協力校連絡協議会</p> <p>オ 教職大学院連携推進委員会</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p><学内></p> <p>ア 自己点検・FD委員会：年数回開催（委員会委員）予定、第1回は3月26日開催（委員2人）</p> <p>イ 認証評価準備委員会：年数回開催（委員会委員）予定、第1回は3月26日開催（委員2人）</p> <p><学外></p> <p>ウ 教職大学院運営委員会：年2回（6月、2月）開催予定 （大学から、研究科長、専攻長、コース代表者、実務家教員等が参加） 第1回は6月24日に開催する方向で調整中</p> <p>エ 連携協力校連絡協議会：年2回（7月、3月）開催予定 （大学から、副研究科長、専攻長、コース代表者、実習委員会委員長・副委員長、附属学校園統括長、附属学校園副校長代表が参加） コロナウイルスによる影響で第1回は開催中止</p> <p>オ 教職大学院連携推進委員会：年2回（6月、10月）開催予定 （大学から、研究科長、専攻長、コース代表者が参加） コロナウイルスによる影響で第1回は開催中止</p>
--

c 委員会の審議事項等 予定

- ア 自己点検・FD委員会：授業評価の実施、FDアンケートの実施、振り返り会の開催、院生懇談会の開催等に関する事（第1回は委員長の決定、任務の確認）
- イ 認証評価準備委員会：認証評価を受けるための計画等に関する事（第1回は委員長の決定、任務の確認）
- ウ 教職大学院運営委員会：教育課程の編成と評価・改善に関する事
- エ 連携協力校連絡協議会：学校等における実習状況、連携協力の企画・運営・評価に関する事
- オ 教職大学院連携推進委員会：養成すべき人材、教育課程の充実、実習の成果等の検討に関する事

② 実施状況

a 実施内容

以下の内容を実施予定である。

- ア 各授業の授業評価、FDアンケート、分野ごとの振り返り会、院生懇談会
- イ 各委員会の成果と課題の把握・整理、教育活動の改善の管理
- ウ 教育課程の編成と評価・改善
- エ 学校等における実習の評価、連携協力校の企画・運営・評価
- オ 教育課程、連携協力の在り方の検討
- カ 学部と連携したハラスメント等に関するFD講演会

b 実施方法

ア～オについては、各委員会が中心となって、それぞれ実施方法について計画する。
カについては、学部のFD委員会と連携して実施方法を計画する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

ア～オについては、各委員会が中心となって、それぞれ開催予定である。
カについては、学部のFD委員会と連携しながら、開催予定である。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各取り組みの結果を研究科小委員会、研究科教授会等で共有し、授業改善に生かす予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

7月、2月に実施予定

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員へは研究科小委員会、研究科教授会で周知、学生へはホームページで公開予定である。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻に係る教育課程連携協議会として、「静岡大学教職大学院運営委員会」を設置している。

同委員会は、地域の区分として、静岡県教育委員会義務教育課長・静岡県教育委員会静岡東教育事務所長・静岡県教育委員会静岡西教育事務所長、職業の区分として、静岡県総合教育センター所長・静岡市教育委員会教職員課長・浜松市教育委員会教職員課長・静岡市教育センター所長・浜松市教育センター所長・静岡県校長会会長、教職員の区分として、静岡大学教育学研究科長・同研究科コース代表・同研究科実務家教員等で構成する。

なお、役職指定となっている委員の人事異動等により、委員の交代があった。(資料5)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

年2回(6月、2月)開催予定である。第1回は6月24日に開催する方向で調整中。

c 委員会の審議事項等

教育課程の編成と評価・改善に関すること。

d その他

特になし。

② 審議状況

a 審議した内容

外部評価について、カリキュラムと学習支援体制について、実習について、初任者研修協働実施プログラムについて、静岡大学教職大学院の教育課程全般について、コロナウイルス感染拡大予防について等について、審議・報告予定である。

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

これから開催のため未定。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

これから開催のため未定。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

令和2年4月開設に向けて、1年前から準備委員会（入試準備委員会・管理運営準備委員会・教務準備委員会・実習準備委員会・広報委員会）を立ち上げ、設置の趣旨・目的を着実に達成できるように準備を進めてきた。4月開設から1か月経過したが、コロナウイルスの影響により、簡略化したガイダンスは実施して学生と連絡する手段は確保した。一方で、授業開始は4月30日からとなり、また、前期に開講予定の基盤実習、訪問実習については、連携協力校の受け入れが困難なことから、後期に延期及び一部は代替プログラムを検討中である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和3年3月 公表予定

b 公表方法

2月開催の研究科教授会で承認した後、第2回教職大学院運営委員会にて公表する予定である。

③ 認証評価を受ける計画

令和4年に評価機関（一般財団法人教員養成評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

設置計画履行状況報告書 資料目次

資料 1	静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻 に設置する委員会に関する内規	・ ・ ・ ・ ・	5 1
資料 2	静岡大学教職大学院運営委員会設置要綱	・ ・ ・ ・	5 3
資料 3	静岡大学教職大学院連携協力校連絡協議会設置要綱	・ ・ ・ ・	5 5
資料 4	教職大学院連携推進委員会設置要綱	・ ・ ・ ・ ・	5 7

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻に設置する 委員会に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻（以下、「専攻」という。）に設置する委員会に関し必要な事項を定める。

(委員会)

第2条 専攻に次の委員会を設置する。

- (1) 専攻企画委員会
- (2) 研究科実習委員会
- (3) 研究科教務委員会
- (4) 研究科入試・広報委員会
- (5) 研究科自己点検・FD委員会
- (6) 認証評価準備委員会
- (7) 研究科学生指導委員会
- (8) 対外連携運営委員会

(専攻企画委員会)

第3条 専攻企画委員会は、専攻の運営及び各種委員会の連携や進行を管理する。

2 専攻企画委員会は、研究科長、副研究科長、専攻長、コース代表、研究科実習委員長をもって組織する。

(研究科実習委員会)

第4条 研究科実習委員会は、専攻における次の各号に掲げる事項の審議及び実施にあたる。

- (1) 学校等における実習の企画・開発に関する事項
 - (2) 実習の実施に関する事項
 - (3) 教育委員会、連携協力校及び附属学校園との連携に関する事項
 - (4) その他学校等における実習に関する事項
- 2 研究科実習委員会は、研究科実習委員会委員長、学生が所属する分野から選出された者各1名、みなし専任教員4名、その他研究科長が必要と認める者をもって組織する。
- 3 研究科実習委員会委員長の選出方法は、別に定める。

(研究科教務委員会)

第5条 研究科教務委員会は、専攻における次の各号に掲げる事項の審議及び実施にあたる。

- (1) 授業科目の編成に関する事項
 - (2) 成果発表会、最終試験等に関する事項
 - (3) その他教務に関する事項
- 2 研究科教務委員会は、大学院教授会小委員会（以下、「研究科小委員会」という。）委員のうちから選出された者4名をもって組織する。

(研究科入試・広報委員会)

第6条 入試・広報委員会は、専攻における次の各号に掲げる事項の審議及び実施にあたる。

- (1) 入学試験に関する事項
 - (2) 広報に関する事項
 - (3) その他入学試験及び広報に関する事項
- 2 研究科入試・広報委員会は、研究科小委員会委員のうちから選出された者4名をもって組織する。

(研究科自己点検・FD委員会)

第7条 研究科自己点検・FD委員会は、専攻における次の各号に掲げる事項の審議及び実施にあたる。

- (1) FD アンケートの実施に関する事項
 - (2) 院生懇談会に関する事項
 - (3) その他自己点検・FDに関する事項
- 2 研究科自己点検・FD 委員会は、研究科小委員会委員のうちから選出された者 2 名をもって組織する。
(認証評価準備委員会)
- 第 8 条 認証評価準備委員会は、専攻における次の各号に掲げる事項の審議及び実施にあたる。
- (1) 認証評価の準備に関する事項
- 2 認証評価準備委員会は、研究科小委員会委員のうちから選出された者 2 名をもって組織する。
(研究科学生指導委員会)
- 第 9 条 研究科学生指導委員会は、専攻における次の各号に掲げる事項の審議及び実施にあたる。
- (1) 学生の学修や就職活動の支援に関する事項
 - (2) その他学生指導に関する事項
- 2 研究科学生指導委員会は、研究科小委員会委員のうちから選出された者 2 名をもって組織する。
(対外連携運営委員会)
- 第 10 条 対外連携運営委員会は、専攻における次の各号に掲げる事項の審議及び実施にあたる。
- (1) 教職大学院運営委員会に関する事項
 - (2) 連携協力校連絡協議会に関する事項
 - (3) 教職大学院推進委員会に関する事項
 - (4) その他対外連携の運営に関する事項
- 2 対外連携運営委員会は、研究科小委員会委員のうちから選出された者 3 名をもって組織する。
(委員長)
- 第 10 条 第 3 条から前条までの各委員会に委員長を置き、それぞれ各委員会の総括にあたる。
- 2 第 3 条の専攻企画委員会委員長は研究科長をもって充てる。
- (補則)
- 第 11 条 この内規に定めるもののほか、この内規の実施に関し必要な事項は、研究科小委員会が別に定める。

附 則
この内規は、令和 2 年 4 月 1 日から実施する。

静岡大学教職大学院運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡大学大学院規則第50条第2項の規定に基づき、静岡大学教職大学院（以下「教職大学院」という。）の教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するために設置する静岡大学教職大学院運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、教職大学院の運営の改善を図るため、教育委員会、校長会等（以下「教育委員会等」という。）からの意見や要望を聴き、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育委員会等との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
- (2) 教育委員会等との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項
- (3) その他、教職大学院の運営の改善に関すること

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 静岡県教育委員会義務教育課長
- (2) 静岡県総合教育センター所長
- (3) 静岡県教育委員会静岡教育事務所長
- (4) 静岡県教育委員会静岡西教育事務所長
- (5) 静岡市教育委員会教職員課長
- (6) 浜松市教育委員会教職員課長
- (7) 静岡市教育センター所長
- (8) 浜松市教育センター所長
- (9) 静岡県校長会会長
- (10) 教育学研究科長
- (11) 教育実践高度化専攻長
- (12) 教育実践高度化専攻のコース代表 各1人
- (13) 教育実践高度化専攻の実務家教員 1人
- (14) その他委員会が必要と認める者 1～2人

2 委員会の委員の過半数は、前項第1号から第9号までの委員でなければならない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、教育学研究科長をもって充てる。

2 委員長は、会務を総理する。

3 教育学研究科長に事故あるときは、専攻長がその職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、静岡大学教育学部事務部において処理する。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

- 1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 静岡大学教職大学院運営委員会設置要綱（平成28年4月1日制定）は廃止する。

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻連携協力校連絡協議会設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、教育委員会、連携協力校及び静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻（以下「教職大学院」という。）との間の連携協力の改善を図るため、静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻連携協力校連絡協議会（以下「連絡協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 連絡協議会は、連携協力校で実施されている現職大学院学生及び学部卒等大学院学生の学校における実習状況や派遣先当該校における校内研修への協力を始めとする実務レベルの連携協力の企画・運営・評価に関する協議を行い、教育活動の改善・充実に努める。

(組織)

第3条 委員は別表に定める教育委員会、校長会及び教職大学院の職員等をもって充てる。

(会議の招集及び議長)

第4条 教育実践高度化専攻長（以下「専攻長」という。）は、連絡協議会を招集し、その議長となる。

2 専攻長に事故がある場合は、あらかじめ専攻長が指名した教授がその職務を代行する。

(庶務)

第5条 庶務は、静岡大学教育学部事務部において処理する。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、連絡協議会の運営に関し必要な事項は、大学院教授会小委員会が定める。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

(1) 静岡県教育委員会から委員に推薦された者	若干名
(2) 静岡市教育委員会から委員に推薦された者	1名
(3) 浜松市教育委員会から委員に推薦された者	1名
(4) 連携協力校の内から委員に委嘱された者	若干名
(5) 教育学研究科副研究科長	
(6) 教育実践高度化専攻長	
(7) 教育実践高度化専攻のコース代表	各1名
(8) 研究科実習委員会委員長	
(9) 研究科実習委員会副委員長	
(10) 附属学校園統括長	
(11) 附属学校園校園長代表	
(12) 連絡協議会が必要と認めた者	若干名

教職大学院連携推進委員会設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、高度専門職業人としての教員の成長を支える体制の充実を目指し、養成・採用・研修の各段階を通じた静岡県教育委員会と静岡県内の教職大学院との円滑な連携を推進するため、教職大学院連携推進委員会（以下「連携推進委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 連携推進委員会は、次に掲げる事項の検討及び調整を行う。

- (1) 教員の養成・採用・研修における静岡県教育委員会と静岡県内の教職大学院との具体的な連携の在り方に関すること。
- (2) その他静岡県教育委員会と静岡県内の教職大学院との連携を推進するために必要なこと。

(組織)

第3条 委員は、別表に定める大学、課、教育機関及び指定都市の職員をもって充てる。

(委員長)

第4条 連携推進委員会に、委員長を置く。

- 2 委員長は、会務を総理する。
- 3 委員長は、静岡県教育委員会教育監をもって充てる。

(会議)

第5条 連携推進委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第6条 連携推進委員会の庶務は、静岡県教育委員会義務教育課において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、連携推進委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成20年6月12日から施行する。

附 則

この改正は、平成21年5月14日から施行する。

附 則

この改正は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成28年5月17日から施行し、平成28年4月1日から適用する。